



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 29 年 6 月 30 日 第 7 巻 (第 1・第 2 合併号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 更なる支援活動に向かって
2. 7 年目の活動を迎えて
3. NOTE とのグループワーク協働支援終了を受けて
4. 東日本大震災から 6 年経過した今
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき

発売のお知らせ

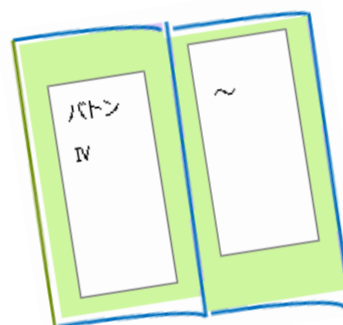
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援の

バトンⅣ」

が発売されました！！

詳細は、協会ホームページ

及び 【3. 書籍販売】をご覧ください。



石巻現地職員を募集しています！！

詳細は協会ホームページ「石巻・現地職員募集中」にてご覧ください。

石巻市応急仮設住宅現況報告

(平成 29 年 5 月 31 日現在 宮城県保健福祉部震災援護室 入居状況抜粋)

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況 （集約化進行中）

入居戸数 1,956 戸

入居人数 4,061 人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況

入居戸数 1,341 戸

入居人数 3,150 人

1. 更なる支援活動に向かって

災害支援チーム

統括責任者 笹岡 眞弓



支援活動 7 年目を迎え、福井さんを中心に、金崎さん、菊田さんが石巻市に在住し、自立支援事業と社会福祉士相談事業を行っています。自立支援事業？、何をもちて自立とみなすかについては議論のあるところですが、自立困難世帯の具体像はソーシャルワーカーなら思い浮かぶことと思います。そこに震災の陰が事態を複雑にもします。

ある日、私もアウトリーチに同行しました。みなし仮設住宅に住む医療が必要な方が、通院していない、そのフォローも業務として石巻事務所は行っています。今までかかわっていなかった方ですが、アポを取らずに伺ったお宅に、幸い外にいらしたので、しゃがんで 1 時間話を伺えました。

高齢の母親の介護と自分の病気、子供たちとの関係、経済的なこと。今持っている現金から考えると心もとない限りなのに、水が入ったみなし仮設住宅の中で、寝付いた母親を抱えるその方の話は、ソーシャルワーカーとしてはのめりこむのをセーブしなければ、と思うほどの事情でした。近くに立つ立派な復興住宅をみるにつけ、震災後の明暗を分ける地域の今を、また目撃した一日でした。

2. 7 年目の活動を迎えて

災害支援チーム

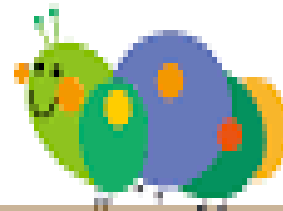
石巻現地責任者 福井 康江

新年度が始まり、2 か月が経ちました。私達現地職員 3 名も、業務に携って 1 年が経ちましたが、慣れることや覚えることに精一杯で、本当にあっという間の 1 年でした。

また震災から 7 年目となり、この 3 月までにプレハブ仮設が 22 ヲ所閉鎖となり、引き続きこの 9 月までに、56 ヲ所のプレハブ仮設が閉鎖となります。今年の前半は、移転・集約のピークとなりますが、この流れに翻弄されることなく、出会う一人一人の方としっかりと関わり、このような時こそより丁寧なソーシャルワークの展開を進めて行きたいと思っています。

さて、そうした中で今、マスコミ等で社会問題として取り上げられていることが、ここ被災地では同時に生じていると感じています。

- ・人口減少と人口高齢化問題
 - * 地域、復興住宅の中での孤立化
 - ・ギャンブル等依存問題
 - * 現状の把握、問題の分析、支援体制の必要性
 - ・生活困窮者問題
 - * 自立支援についてのあらたな挑戦
 - ・就労問題
 - * 正規雇用の困難さ、就労支援の利用
 - ・離婚によるひとり親家庭支援問題
 - * 特に女性の自立支援
 - ・ひきこもり支援
 - * 50・80 問題、不登校
 - ・多頭飼育（崩壊）問題
 - * 心のケアとの関連、依存性
 - ・発達障がい者支援
 - * 診断と理解、支援体制等々
- （*はキーワードとして考えていること）



被災地支援から7年目、こうした問題を目のあたりにして「被災者支援」に併せて、地域包括ケアを意識したソーシャルワークを実践してゆく必要性を強く感じています。

3. NOTEとのグループワーク協働支援終了を受けて



日本医療社会福祉協会とNOTEでの協働の活動は今年度中止となる



災害支援チーム

アドバイザー 西田 知佳子

石巻現地責任者 福井 康江

昨年 1 年間現地責任者の福井SWと西田が石巻NOTEで就労支援の一つとしてグループワークを行った。NOTEでの就労支援を受けている利用者を対象として1ヶ月 1 回 1 時間、NOTEの職員も参加してのグループワーク（以下グループ）だった。利用者は多いときは7名少ない時でも3名が参加し、毎回利用者さんから就労に関する不安や期待、人間関係の悩みなどが語られ、利用者さん同士が助言をしたり励ましたりということもあり、就労に向けて多少とも役に立っているように福井も西田も感じていた。

この3月に2016年度が終わり2017年度も同じような形で続けられるものと思って、3月の年度末の会で利用者さんたちにそのようにアナウンスをして終わりにした。ところが今年度、NOTEの受託事業の流れの中で、昨年までは通所の期限はあったものの、柔軟に対応してくれていたようであったが、今年度からは2年の通所期間内での事業体制とされたようだ。確かに2年の中で就労を確立するためには、長期的なサポートグループプログラムではなく、「費用対効果」を考えた能率的かつ機能的な講座が必要なのかもしれない。

ということで、日本医療社会福祉協会が支援できなくなった後も石巻にグループワークが根付いてほしいとの思いは、残念ながら今のところ難しい状況となっているが、それでもこうした思いにはこだわりを持ち続けていきたい。

4. 東日本大震災から6年経過した今

災害支援チーム

石巻現地担当 菊田 駿

石巻に来て、1年が経過しました。

去年の今頃は、期待よりも不安の方が正直大きかったことを思い出します。今ではその不安は少なくなり日々の業務に取り組んでいます。2年目も石巻市民のために頑張っていきたいと思います。

石巻では、震災から6年が経過した今だからこそその課題が仮設住宅入居者に出てきています。それは、仮設住宅では家賃が発生していなかったのですが復興公営住宅に入居することで、家賃が発生し生活困窮を余儀なくされる仮設住宅入居者が目立っています。

ケースを紹介したいと思います。

■70 代男性 自立困難世帯：大規模半壊、大家からの証明を貰うことができず、復興公営住宅の入居要件を整えることができませんでした。3月に発表された復興公営住宅の入居要件緩和にて、復興公営住宅申込みが可能となり、申し込み手続きを完了することができました。しかし、その後本人から「今年の金額では家賃が発生した場合に生活するのが厳しくなる」と不安の声が聞かれたため、保護課へ同行し生活保護についての相談をしました。復興公営住宅への入居が正式に決まり、家賃が発生するタイミングで生活保護を申請することになり、本人も安心されました。入居要件緩和にて、入居が可能にはなったが、家賃の支払いを主とし、その後の生活についての不安緩和に向けての支援をおこないました。

入居要件緩和によって復興公営住宅への申込みが可能となった世帯が増えている一方、家賃や生活費の問題で生活が困窮してしまうケースが増えており、入居支援のみではなく経済的な支援も必要となっています。保護課への相談を踏まえ支援していますが、保護申請に対して拒否的な態度を示す方が少なくないことも伺えます。

復興公営住宅への入居に期待を弾ませながらも不安も同時に抱えている住民さんに寄り添い 1 つ 1 つの課題を整理し住民さんが望む生活に向け、共に歩んでいきたいと思えます。

・石巻日和倶楽部に入団



以前、災害支援ニュース 2016 年 11 月 14 日第 6 巻(7 号)でもご紹介をした社会人野球チームの石巻日和倶楽部に入団しました。

4 月 8 日・9 日に第 88 回都市対抗野球宮城県予選が行われ、2 番ショートでスタメン出場しました。8 日は 1 回戦、VS 青葉クラブに 8-10 と敗戦。9 日は敗者復活戦、VS ホクトベースボールクラブに 0-10 と敗戦。結果は残念な結果となってしまいました。

メンバーは全員が石巻市の出身選手で構成されています。震災当時は野球どころでもなくチームの存続すら厳しい状況だったようです。又、日々の練習で使用していた水押球場に仮設住宅が建設されました。現在でも、水押球場には仮設住宅は建っています。そんな中でもキャプテンを務める三浦さんはメンバーと連絡を取り合いながらチームを維持されてきました。その結果、人数は減ってしまったもののチームは存続し、一昨年には野球文化に貢献したとして日本野球連盟から特別表彰されました。

ケースで担当している男性の方が石巻日和倶楽部に在籍していたことがあると話を伺い、支援の合間に打撃指導をしてもらったりしており、以外なところでも繋がりを持つことが出来ています。

次は 6 月 11 日に第 42 回クラブ選手権が



写真： 上 看板
下 スタンド

七十七銀行野球部グラウンドにて行われる予定です。



5. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 総括冊子発行に向け 】

ブレインストーミング

7月9日 12:00 ~ 協会会議室において

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ 】

次回会議日程

7月9日 ブレインストーミング終了後 協会会議室において

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この 5 月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

[4. facebook]



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL
<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

今年度の発行について

“2ヶ月～3ヶ月に1回の発行”の提案検討中

次回発行予定 7月下旬

7. あとがき

.....

災害支援チーム事務局から

編集担当 西田

今年度最初の発行が6月の夏至も過ぎた時期になってしまった。楽しみにしてくださっている全国の方にはまずお詫びをしなければならない。7年目に入った2017年、現地責任者の福井SWが述べているように石巻にはまだまだ多くの問題が山積している。どの項目も被災地であるゆえの問題ではなく、全国各地域が抱える困難と重なるように思う。石巻は被災という体験が問題の根をさらに深くしている。どのように私たちSWが支援をしたらいいのか。今年は新しい職員の応募がなく現地の職員3名が昨年の引き続き継続して支援を行っている。私たちはその3名にすべてを任せっきりにしていいのか。以前のように短

期の応援は募集していないが、日本協会のSWは石巻のことをいつまでも頭の中に入れてほしい。そして石巻が現在どのように復興しているか関心を持ってほしい。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

平成29年6月30日 第7巻(第1・第2 合併号)

作成

日本医療社会福祉協会

災害支援チーム事務局